

No. 17 茅ヶ崎里山公園 都市公園整備事業

◆事業概要

1. 概要

1) 全体の概要

ア) 県立都市公園の整備・管理では、県立都市公園の成立経緯と特性、これまでの取組みを踏まえ、環境問題、少子高齢化、大規模地震災害への対応などの社会状況の変化に対応するため、4つの視点から10の施策の方向性を定めている。個々の公園においては、各公園の立地や利用の状況に応じて、以下の施策を実施している。

Ⅰ 自然環境の保全と活用

- (1)生態系や生物多様性への配慮 (2)地球環境問題等への地域からの対応

Ⅱ 災害対応とバリアフリー化の推進

- (3)緊迫する自然災害への対応 (4)誰もが楽しめる公園づくり

Ⅲ 地域活性化への貢献

- (5)歴史や文化の継承と創造 (6)地域と一体になった魅力の向上

Ⅳ 効率的で効果的な公園整備とサービス

- (7)より良いサービスの提供 (8)多様な主体との連携
(9)既存公園の再生 (10)骨格となるみどりの確保

イ) このような4つの視点を踏まえた上で、県全域での均衡配置を事業目標に都市公園整備を進めてきた。これまで27公園を開園し、多様なレクリエーションの提供や都市における緑の確保など一定の成果を収めている。

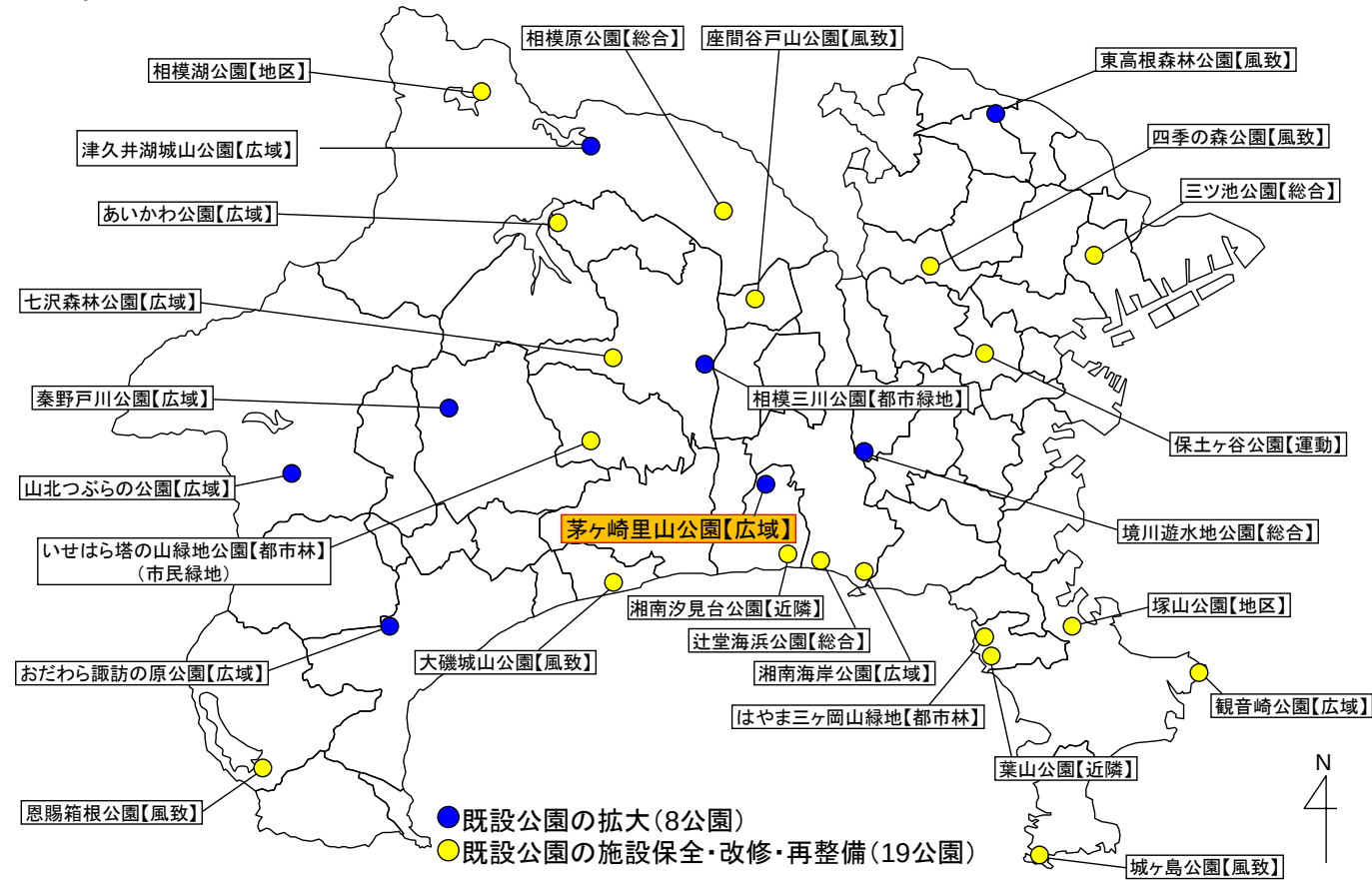


図1 県立都市公園配置図(平成30年4月1日現在)
開園27公園、開設面積約698ha、計画決定面積約1,222ha(H30.4.1現在)

2) 評価対象事業の概要

ア) 本公園は、湘南地域内陸部の茅ヶ崎市北部に計画された、計画面積36.8haの広域公園である。

イ) 『人と人・自然がつながる・いきいき里山公園』をコンセプトとし、茅ヶ崎市北部に残された、まとまりある樹林地と水田、畑で構成された里山の風景を活かし、また復元することによって、人の暮らしと自然がマッチした昭和30年代の里山の生活を体験することができる公園として整備してきた。

ウ) 平成8年度から整備を開始し、平成13年度に一部開園(12.4ha)した。平成30年4月現在、開園面積は約35.2haとなっている。



図2 事業地周辺図

3) 評価対象事業の位置づけ

ア) 神奈川県計画:

①かながわグランドデザイン(平成24年3月)

第2期実施計画(平成27年7月)主要施策・計画推進編2015-2018

政策分野別の体系:Ⅶ 県土・まちづくり

中柱①:次の世代に引き継げる持続可能な県土造り

小柱④:自然環境に配慮したまちづくり、主要施策707:都市公園などの整備

地域別の体系:湘南地域圏

大柱①:多様な交流を促進し、自然や歴史などの資源を生かした地域づくり

小柱②:地域資源を生かした魅力ある地域づくり に位置づけられている。

②かながわ都市マスタープラン(平成19年10月改定)

第5章 部門別都市づくりの方針

(3)都市の個性や魅力を高める社会資本整備

イ)都市の憩いやうるおいの場となる公園・緑地の体系的整備 に位置づけられている。

③かながわ生物多様性計画(平成28年3月)

法令・制度等を通じた生態系の保全の中の一手法として位置づけられている。

④神奈川県広域緑地計画(平成8年12月)

広域公園配置の考え方と基本方針のもとに計画した広域公園の1つである。

イ) 市の計画

①茅ヶ崎市の計画：茅ヶ崎市みどりの基本計画（平成21年7月）

広域のかつ骨格のみどりをベースとしたみどりのネットワークの形成、立地特性を踏まえたみどりの保全・再生・創出を総合的な配置方針としており、本公園は生態系ネットワークの核、レクリエーション拠点、優れた自然的景観地域に位置付けられている。

2. 事業の経緯や必要性

1) 經緯

平成 3 年 3 月	「第二次新神奈川計画改定実施計画」に新規県立都市公園として位置づけ
平成 5 年 1 月	都市計画決定（面積36.8ha、種別 広域公園）
平成 6 年 1 月	用地取得開始
平成 8 年 4 月	工事着手
平成13年10月	一部開園（12.4ha）
平成15年 4 月	開園区域の拡大（累計16.9ha）
平成17年 4 月	開園区域の拡大（累計18.2ha）
平成19年 4 月	開園区域の拡大（累計19.8ha）
平成22年 4 月	開園区域の拡大（累計26.7ha）
平成23年 4 月	開園区域の拡大（累計27.9ha）
平成24年 4 月	開園区域の拡大（累計34.3ha）
平成26年 4 月	開園区域の拡大（累計35.2ha）

2) 必要性

ア) 県立都市公園の空白地であった湘南地域内陸部の茅ヶ崎市北部において、県民のレクリエーション需要を満たすとともに、残されたまとまりある樹林地と水田、畑を保全、復元する整備により、地域の環境を保全する必要がある。

イ) 里山保全活動等で地元ボランティアが活発に活動しており、環境保全の意識と、地域のつながりを深める機会を提供する必要がある。

ウ) 年間利用者についても、年々増加の傾向を示している。

工) 東日本大震災の大津波警報発令時には、津波の危険を回避するため、相模湾沿岸の住民約 200 名が本公園に自主避難した。平成 25 年 2 月に茅ヶ崎市の広域避難場所（現在は指定緊急避難場所）に指定され、ヘリポートとしての役割も有するなど、地域の防災の拠点となっている。

3. 事業の目的

レクリエーション需要の増大に対応するための広域的なレクリエーション活動の拠点として、里山の景観を保全・活用しながら、地域の自然や文化と触れ合うことで、都市防災の拠点としての機能も有する公園を整備するものである。

4. 事業内容

- 1) 公園種別：広域公園
- 2) 事業箇所：茅ヶ崎市芹沢地内
- 3) 計画面積：36.8ha
- 4) 主要施設：パークセンター、多目的広場、風の広場、湘南の丘、谷（やと）の家、里の家、風のテラス、中ノ谷池（なかのやといけ）、駐車場

5. 事業実施にあたり配慮した項目

1) 稀少鳥類への配慮

- ・猛禽類の希少種が確認されたことから、共生できる環境づくりのため、樹林の保全やえさ場となり得る環境の保全等を行うとともに、繁殖期を避けて整備を行った。

2) 整備に関する配慮

- 将来の管理運営を念頭に、地域や公園利用者などによる協議会（茅ヶ崎里山公園協議会）を開き、公園づくりの段階から県民参加型の公園づくりを行ってきた。
- 地形の改変は最小限に抑え、現況の地形・植生を活かした公園にすることで、自然環境の保全やイニシャルコストの低減を行った。

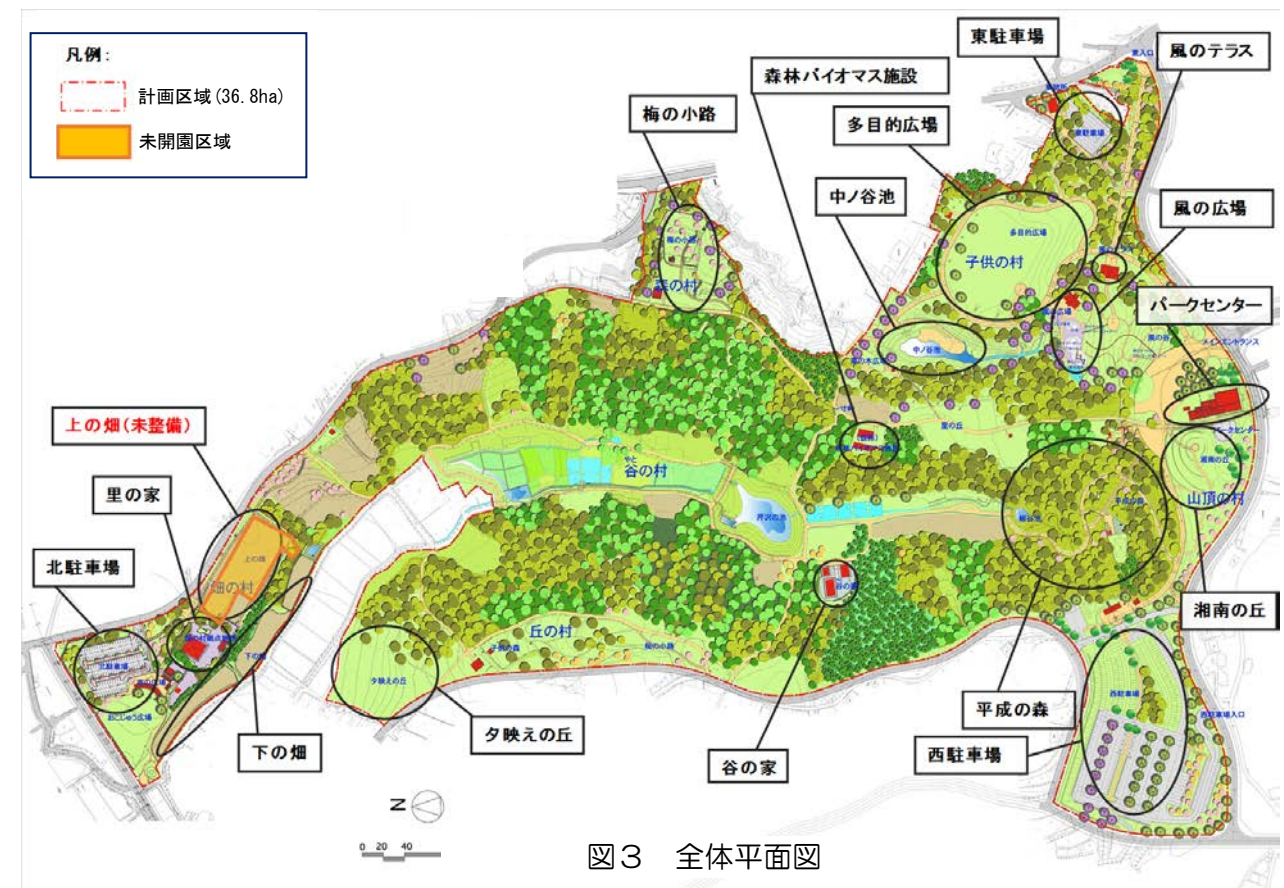


図3 全体平面図



写真1 現況の地形を生かした
谷（やと）の村



写真2 茅ヶ崎里山公園協議会

◆チェックリスト

(1) 事業の必要性等に関する視点

①事業を巡る社会経済状況

ア) 地域の状況

- 平成27年3月に、圏央道寒川北ICから海老名JCT間が開通した。湘南地域へのアクセスが向上し、湘南地域の観光客数も増加傾向にある。

イ) 地元の意識

- 県民の憩いの場として利用されているほか、例年「里山公園まつり」や「ちがさきレインボーフェスティバル」などの会場として利用されている。
- 都市部での宅地化が進む中で、首都圏からみても貴重な自然環境を有しているため、観光・レクリエーション上、環境上重要な拠点施設として認識されている。

ウ) 公園利用者数の推移

利用者数は開園区域拡大とともに増加し、現在50万人前後で推移している。

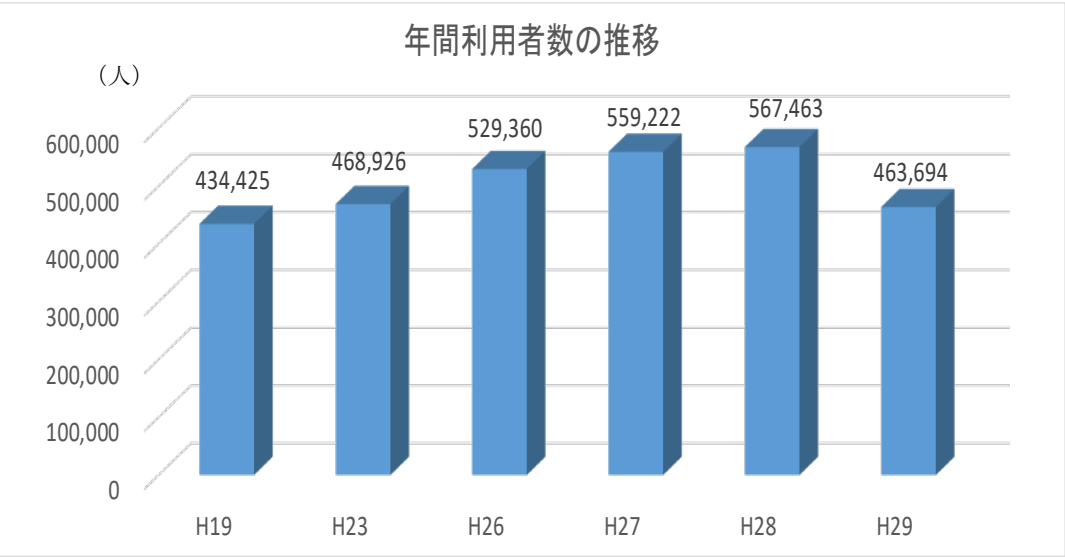


図4 年間利用者数の推移

②事業の投資効果等

■費用対効果

$B/C = \text{総便益} / \text{総費用} = 2,307.3 \text{ 億円} / 453.1 \text{ 億円} \approx 5.1$ (経済的内部収益率: 16.5%)

総便益: 2,307.3 億円 直接利用価値: 123.4 億円

間接利用価値: 2,183.9 億円

総費用: 453.1 億円 用地費: 319.6 億円

施設費: 84.5 億円

維持管理費: 49.0 億円 (※金額は現在価値)

■上記便益に算定することができない事業効果

ア) 教育の場として

谷の村、畑の村ゾーンを中心として、地域の里山文化や農業体験、自然観察会などが行われ、都市域に貴重な自然・環境教育の場として機能している。

イ) 市民参加による公園づくり

地元住民が中心となって行われている「里山公園まつり」などのイベントや、ボランティアによって行われる里山の自然の手入れなど市民参加の場として機能している。

ウ) 地域活性化の拠点として

近接する大学や地域と連携し、公園まつりを開催するなど地域の連携の場として機能している。



写真3 農業体験



写真4 農業体験



写真5 自然観察会



写真6 公園まつり



写真7 ボランティアによる里山の手入れ



写真8 地産地消の取り組み

③関係する地方公共団体等の意見

■茅ヶ崎市

自然環境を活かした本公園に対して茅ヶ崎市北部の地域活性化の核としての機能への期待を示している。

■茅ヶ崎里山公園運営会議

茅ヶ崎里山公園運営会議は、地域や協働団体、公園利用者と、意見、情報交換を行い、適切な公園の管理運営を図ることを目的に平成24年度に設置された。自然環境保全や地域活性化等に対して本公園が果たす役割への期待が寄せられている。

(2) 事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

- 事業化年度：平成5年度
- 用地着手年度：平成6年度
- 進捗率：99.5%（事業費ベース）
- 供用率：95.7%（開設面積35.2ha／計画面積36.8ha）
- 残事業の内容等：用地買収、畑の村等の一部整備
- 工事着手年度：平成8年度
- 用地取得率：98.7%

②これまでの課題に対する取組状況

参加型公園づくりでは、意見調整に時間を要してきたが、コンセンサスを得ながら整備を進めてきた。今後、管理運営においても、県民参加による公園づくりを推進していく。

③今後のスケジュール

平成29年度末時点での事業進捗率は99%となっている。今後も地権者との交渉を継続し、未取得用地確保及び整備を進める。

表1 今後のスケジュール

	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度
用地買収					
調査・設計					
工事					

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

■コスト縮減の検討

地形の改変を最小限に抑え、現況の地形・植生等を生かした公園整備を行うことで、イニシャルコストの低減を図るとともに、ボランティア連携による維持管理を進めることで、引き続きコスト縮減を図る。

■代替案立案などの可能性

本公園は広域公共レクリエーション施設の空白地であった湘南地域内陸部に整備され、毎年50万人前後の来園者を得ている。整備も最終盤まで進んでおり、代替案立案は必要ない。



写真9 パークセンター



写真10 風の広場



写真11 谷（やと）の家



写真12 里の家



写真13 防災パーゴラ



写真14 湘南の丘からの富士山

◆対応方針案

継続	【理由】
	本事業は、茅ヶ崎市北部に残されたまとまりある樹林地と、水田、畑で構成された里山風景の保全を目指しており、里山文化を体験できる施設としてボランティア活動も盛んに行われ、地域の交流の拠点となっている。さらに、茅ヶ崎市の指定緊急避難場所に指定されているなど、事業の必要性に変化はなく重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要があると判断する。